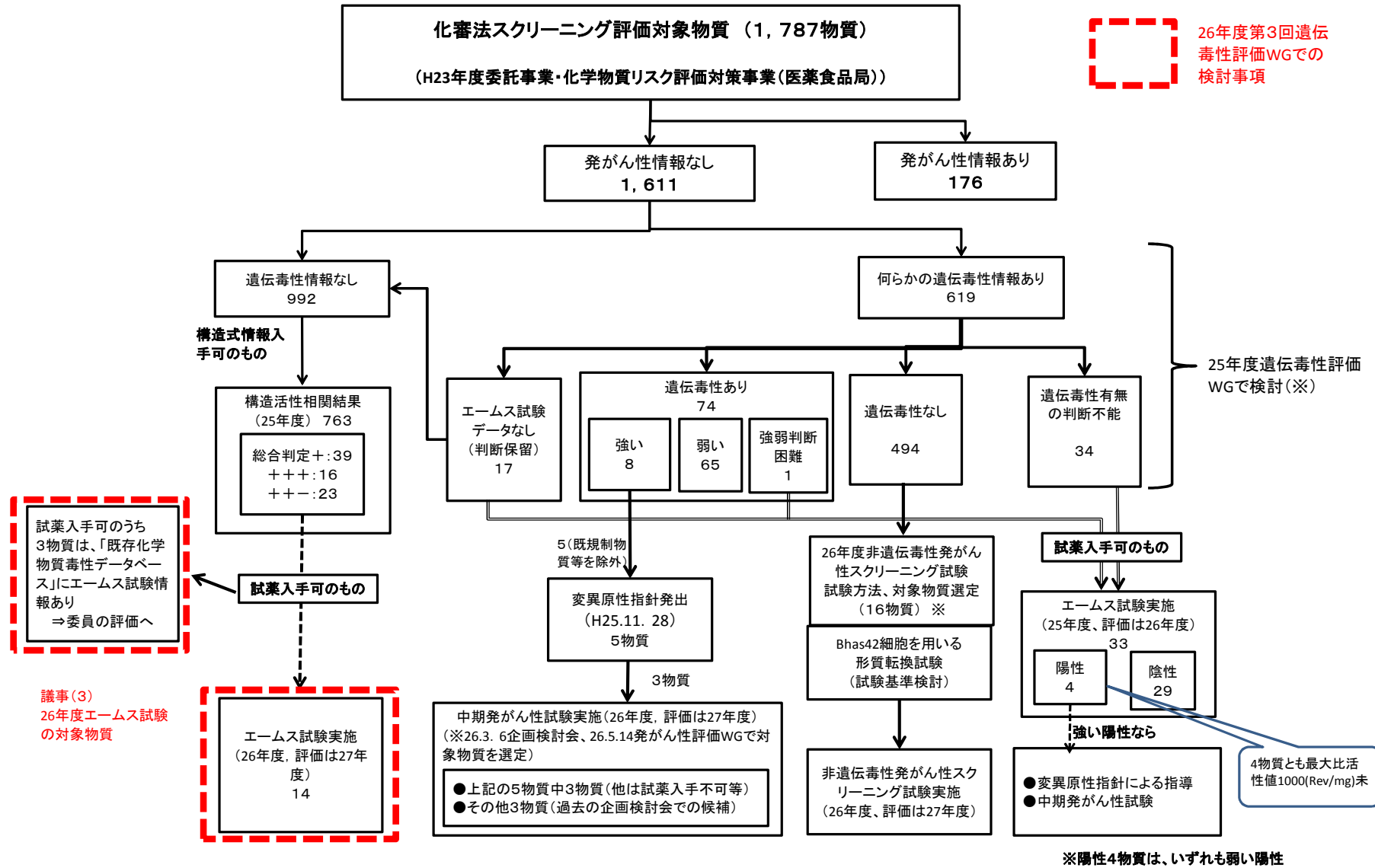


# 遺伝毒性評価ワーキンググループの検討事項(H25年度)

  26年度第3回遺伝毒性評価WGでの検討事項



# 遺伝毒性評価ワーキンググループの検討事項(H26年度)

化審法スクリーニング評価対象物質 (12,920物質、うちCASあり12,512物質)  
 (H22年度一般化学物質届出、暴露クラスがクラス5及びクラス外の物質)

26年度第3回遺伝毒性評価WGでの検討事項

発がん性情報なし  
12,343

発がん性情報あり  
169

遺伝毒性情報なし  
11,716

何らかの遺伝毒性情報あり 627  
うち指導済12を除外 ⇒ 615

構造式情報入手可能なもの

構造活性相関予測の実施 (H26年度~)  
 (1) 遺伝毒性情報「あり」615のうち、エームス試験なし179 ⇒ 構造式あり169(予測済)  
 (2) 遺伝毒性情報「なし」11,716のうち、製造・輸入量が多いもの ⇒ 約500(予測中)

エームス試験データなし (判断保留) 179 (うち1は規制済)

遺伝毒性あり 97  
 強い 33 (うち9は規制済又は指導済)  
 弱い 55  
 強弱判断困難 9

遺伝毒性なし 事務局: 260+2 委員: 64

遺伝毒性有無の判断不可 11

エームス不備で判断保留 2

議事(2) 25年度文献調査結果に基づく遺伝毒性評価

(1)「+」26物質のうち19は、エームス試験データあり  
 ・事務局: 3物質、いずれも陰性と評価  
 ・委員: 16物質、今後評価を実施

議事(3) 26年度エームス試験の対象物質

総合判定「+」、かつ、試薬入手可能なもの

エームス試験実施  
 (1)「+」26物質のうち5物質(26年度)  
 (2)「+」〇物質のうち〇〇物質(27年度)

変異原性指針発出 〇〇物質

中期発がん性試験実施(27年度、評価は28年度)  
 (企画検討会、発がん性評価WGで対象物質を選定)

Bhas42形質転換試験対象物質選定 (〇〇物質)

非遺伝毒性発がん性スクリーニング試験実施 (27年度、評価は28年度)

試薬入手可能なもの

エームス試験実施 (26年度、評価は27年度) 〇〇  
 陽性 〇〇 陰性 〇〇

強い陽性なら  
 ●変異原性指針による指導  
 ●中期発がん性試験

●(1)の5物質の評価  
 ●25年度構造活性相関予測「+」39物質のうち、26年度エームス試験実施の14物質の評価 (参考資料3-1)